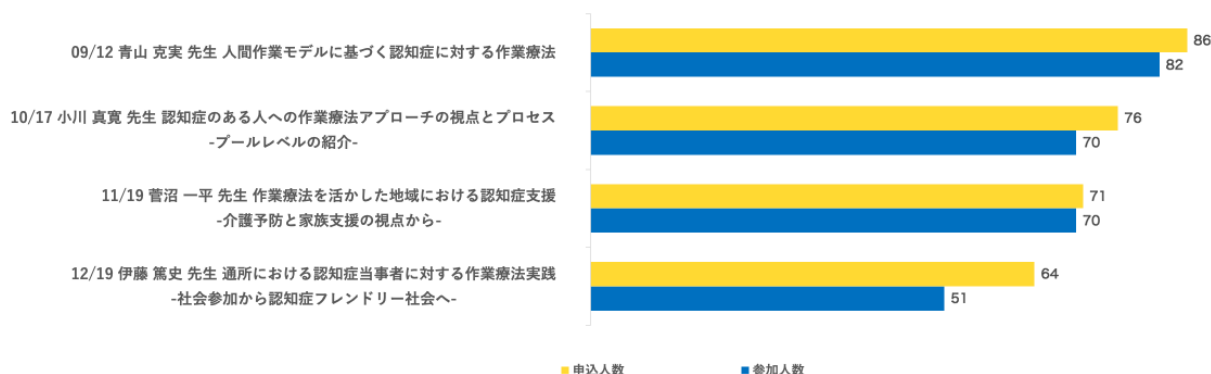


認知症に関する活動計画（概要）

和歌山県士会は認知症支援委員会を設置し、現在10名の委員で活動している。

2024年度は、「認知症ケアに携わる専門職のリハビリテーション研修会」をオンラインにて4回行い合計273名（平均67名）の参加を得た（下図）。2025年度も同研修会を企画し、オンラインにて開催を計画している。本研修は、認知症支援における「普及啓発」を目的とし、作業療法士のみならず他の専門職、自治体職員等も参加できる内容としている。これに加え、委員会としての地域活動を実施する。昨年度までは大学教員が関わっている地域活動へ参加協力していたが、「地域で実践できる作業療法士」の構築を目指し、認知症カフェの地域事業を実施する。和歌山県南部での作業療法士が少ない現状から広報活動も含め作業療法士が主体となっていく予定である。



世界アルツハイマー・デーでのイベントの企画

2024年度は、認知症の人と家族の会和歌山県支部と共同でアルツハイマーデー記念講演会やライトアップ等の企画を行った。2025年度は、記念講演会等の企画、ライトアップの運営等に引き続き継続して協力を行う予定である。

認知症の人と家族の会との連携事業

認知症の人と家族の会和歌山県支部には県士会員が2名世話人として所属している。定例会や月1回の交流会、啓発事業の運営協力を行なっている。2024年度は、JR和歌山駅前での街頭活動に県士会員を派遣した。10月には認知症の人と家族の会の全国研究集会が和歌山市で開催され運営協力を行った。家族の会との意見交換を行った。2025年度も意見交換を行いつつ、家族の会への県士会員派遣にとどまらず連携強化を行っていく。

介護予防事業・日常生活支援総合事業

2024年度は、市の認知症予防事業に17回、19名（延べ107名）、認知症サポーター養成講座に1名（22回）、認知症カフェ1名（6回）の県士会員を派遣した。2025年度も2024年度同様に県士会員を派遣する予定である。